



## タケノコを野生動物の食害から守る

### 山梨県のタケノコ生産

竹林は山梨県下に広く分布していますが、モウソウチクなど大型のタケは主に峡南地域に生育しており、特に南部町、身延町で県下の分布面積の 50%を占めます。南部町ではこれらの竹林から産出されるタケノコを地域の特産品としており、県内タケノコの 40%を生産しています。

### タケノコ生産と獣害

農林業と野生動物による被害（主に食害や衝突、掘り起し等による施設破壊）は現在切っても切り離せない関係であり、タケノコ生産においても無視できない状況です。

タケノコは春先にまとまった量が収穫できる貴重な生産物であり、それは野生動物にとっても同様です。タケノコの食害は主にイノシシが原因であるといわれており、これまではイノシシ用の電気柵（高さ 50 cm程度の電気柵）などを設置してきました。しかし、それだけでは被害が完全に無くならず、他の野生動物によるものか、電気柵のイノシシへの効果が十分でないのかははっきりしない状況でした。



タケノコ生産用の整備された竹林



イノシシ用電気柵（高さ 50 cm）

### タケノコを食害している野生動物の調査

タケノコを野生動物の食害から守るには、どんな動物がタケノコを食べているのかを知る必要があります。本研究では、南部町万沢の竹林 4カ所（タケノコ生産竹林 2カ所、放置竹林 2カ所）に自動撮影カメラを複数台設置して、タケノコを食害している野生動物を調査しました。

## タケノコを食害していたのは・・・

タケノコを食害していたのは「イノシシ」「ニホンジカ」「ニホンザル」でした。

### イノシシ

当初、タケノコ生産竹林（イノシシ電気柵を設置している）でもタケノコを食害していると言われていたイノシシは、実際にはイノシシ電気柵のない「放置竹林」のみでタケノコを採食していました。その食欲は旺盛で、春前の地中に埋まった状態のタケノコも嗅ぎ分けて探し出し、土を掘り起こして採食していました。

### ニホンジカ、ニホンザル

ニホンジカ、ニホンザルはタケノコ生産竹林、放置竹林のどちらにおいてもタケノコを採食しており、イノシシ用電気柵程度の高さでは簡単に乗り越えてタケノコ生産竹林に侵入します。イノシシのような旺盛な採食行動ではありませんが、複数回にわたって採食に現れるため、その食害は侮れません。特にニホンザルは集団で行動しているため、一頭体の採食量が少なくとも、群れの頭数が多いと大きな被害になります。また、電気柵に隣接する竹の稈（かん）を伝って柵を越えるため、電気柵を高くするといった対策（ニホンジカには有効）ではニホンザルの侵入を防ぐことは難しいのが現状です。



#### イノシシ

出現時期：11月～翌年6月

出現場所：放置竹林のみ（電気柵は効果大）

特徴：

食欲旺盛、地中のタケノコも嗅ぎ分けて食べる。  
電気柵のあるタケノコ生産竹林には入れない。



#### ニホンジカ

出現時期：通年（夏季は少なめ）

出現場所：タケノコ生産竹林、放置竹林

特徴：

イノシシ用電気柵程度の高さは簡単に飛び越える。  
タケノコ地上露出部を齧るように採食。



#### ニホンザル

出現時期：通年（夏季は少なめ）

出現場所：タケノコ生産竹林、放置竹林

特徴：

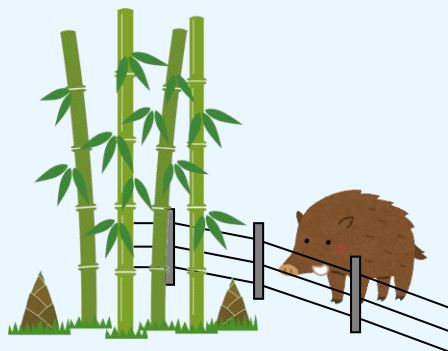
集団行動し、イノシシ用電気柵も竹の稈を伝って越える。漕ぐようにしてタケノコを抜いて採食。

## タケノコを野生動物の食害から守るために

### ①イノシシの侵入を防ぐ

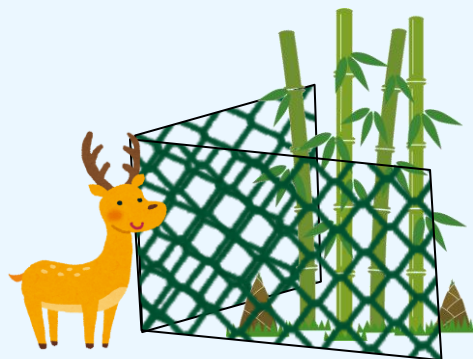
イノシシ用電気柵を設置したタケノコ生産竹林ではイノシシの侵入が見られなかったことから、イノシシに対しては高さ 50 cm 程度の電気柵でも十分な効果があることがわかりました。

食欲旺盛で嗅覚に優れたイノシシをタケノコ生産竹林に侵入させないために、イノシシ用電気柵の設置が有効です。



### ②ニホンジカの侵入を防ぐ

ニホンジカは高さのないイノシシ用電気柵は簡単に飛び越えてしまいます。ニホンジカに対応するには 2m 程度の高さまで電気柵や他の樹脂ネットなどで柵を張る必要があります。樹脂ネットを張る場合は、周りの立竹を利用するとコストを抑えることが出来ます。しかし、の被害を防ぐためにはイノシシ用電気柵と組み合わせる必要があります。



### ③ニホンザルの被害を防除する

ニホンザルは竹の稈を伝って立体的に移動できるため、電気柵や樹脂ネット柵を高くしても簡単に侵入されてしまいます。比較的背の低い果樹などでは側方、上空と完全に柵で囲ってしまう例もありますが、背の高い竹林の場合現実的ではありません。現状では地道な追い払いなどで対応しています。



### ④捕獲による個体数調整

タケノコ生産竹林を柵で囲って食害を防除したとしても、その外側にタケノコを食害する動物が数多く生息している状態では、柵が損傷した場合などにすぐに大きな被害が発生してしまいます。そこで、地元猟友会などに協力してもらい、捕獲による個体数調整をおこない、柵による防除と組み合わせることで食害のリスクを減らすことができます。



作成：山梨県森林総合研究所  
資源利用科  
研究員 大地純平

連絡先  
TEL 0556(22)8001 FAX 0556(22)8002  
sinsouken@pref.yamanashi.lg.jp